【西支部、大島地区　意見交換会】

宿毛市市街地における海岸堤防の地震津波対策意見交換会　議事メモ

日　時：平成28年10月12日（水）19：00～20：10

場　所：大島公民館　2F

出席者：西支部大島地区住民　21名

○県宿毛事務所より説明（別添資料）

宿毛市市街地における海岸堤防の地震津波対策（平成28年度説明会資料）

○質疑応答

Q1：対策の予定は決まっていますか。

県：県の中で優先度があり、宿毛市の経済圏を守るために、一番先に高砂、次いで新田、大深浦の東側の順で対策を行います。その後、片島が続き、大島の対策となります。大島を対策する時期としては約10年後を予定しています。詳細な時期については国と検討しています。長期浸水の高さで整備するとしても、かなりの費用や時間がかかると思われます。最初の新田、高砂区間でも5年以上を想定しています。

意見：豊後水道や日向灘では、熊本地震以降、津波の速報がよく出ていました。地震や津波に対して、怖い思いをしながらみんな暮らしている状況です。

県：説明会も何度か実施しましたが、恐怖心を煽ってしまうため、情報をダイレクトに伝えることは悩みました。ただ、対策の効果について知ってもらいたいため、今回、説明しているところです。大島の場合、対策は10年後と伝えましたが、最初に対策する高砂、大深浦の東側、沖新田のあたりは対策すれば、震災時の復興も早いです。大島の住民の方も経済圏が復興すれば、少しでも早く大島で生活ができるのではないかと考えています。まずは復興に必要な経済圏を守るというのが県の考え方です。

Q2：このあたりは40cmから1mの嵩上げで、津波に対して大丈夫ということですか。

県：津波に対し、現状の堤防では持たないので、堤防を厚くし、引き波にも耐えるように計算しています。

Q3：今の堤防に付け足すような工事なのですか。泥のような地盤の上に住宅等が建っている状態だと思いますが、津波がきたら堤防が壊れるのではないですか。

県：基本的に今の堤防に付け足す工事です。地質調査（ボーリング）により地面の状態を確認したうえで、シミュレーション等によりどういった構造にすれば津波や地震に対して堤防が耐えるのか計算しています。

Q4：和光商事前面の堤防は、台風のたびに波でずれているようですが、そういった状況でも耐えられるような工事はできますか。

県：工事の基本的な考え方は同じですが、現場の状況に応じて対策します。

Q5：対策範囲としては宿毛市全部ですか。

県：松田川橋から新田、高砂をこえて、大島、大深浦までを対象としています。

Q6：宇須々木、藻津のほうは切り捨てるということですか。

県：切り捨てるというわけではないです。今の計画の中では経済圏を優先して対策しています。

Q7：橋の元から咸陽島あたりまで対策しますか。

県：旧大島漁港の対岸まで対策します。

Q8：大島橋はどうしますか。

県：宿毛市が検討中です。橋全体を1m弱嵩上げする予定です。時期については未定です。

Q9：大島橋の対策はいつの予定ですか。橋の真ん中に穴があいており、アスファルトで埋めている状態です。雨天時にはその穴から雨水が漏れており通るのが怖いです。大島地区は橋がないとどうしようもないと思います。

県：時期はいまのところ未定です。対策は手前から段々と上げていくイメージです。道路構造令により勾配について定められており、勾配がきつくならないようにしながら設計します。

Q10：大島の新しい橋の厚みはどのくらいですか。

市：検討中であり、今、回答することはできません。

Q11：地震時、沖では海面が隆起し、宿毛市周辺が2.4m沈下すると思いますが、沈下後の水深は変わらないのではないですか。

県：海面の高さは一定であるため、沈下した分、水深は大きくなります。

Q12：沖の防波堤はどう設計していますか。津波で転倒するのではないですか。

県：石を積み平らにした後に、ケーソンを使用して石を積んでいます。現在、国が実施しています。今の設計は東北の震災以前に作成したものです。

完成したものに対し、堤防の嵩上げや補強を検討しています。

Q13：2.4mの沈下後でも堤防が海面よりも高くなるように対策するということですが、確実なものですか。また、堤防の破壊についてはどうですか。

県：想定される最大の沈下量2.4mを見込み、それに余裕高50cmを加えて設計しています。堤防が沈下したときに、満潮位より高くなるようにあらかじめ嵩上げしておくというものです。地震による液状化等については、液状化するかしないかを計算により判断し、それに耐えるように設計をしています。また、沈下後は壊れずに津波に耐える設計です。必然的に堤防は厚くなり、今の堤防の5～6倍の厚さとなります。

Q14：鷂（はいたか）神社では、1700年代の宝永地震のときに上の三段を残してあとは全部浸かったという由来があり、ここは避難場所としては、もう駄目ということになります。宝永地震規模の震災が1700年代とずっと以前であり、今まで来ていないということは、次の震災は、宝永地震規模以上のものが想定されるということですか。

県：確率的にはわかりませんが、可能性は否定できません。

Q15：震災に対しては、とくに高齢者はもう諦めがちな気持ちになっています。高齢者は避難訓練をしても足が痛かったりするため、避難所まで登れなかったりします。また、2.4m下がるというのは実感がわきません。

県：あくまでも想定最大です。一番厳しい条件で計算するので、最大で2.4m沈下するということもありえます。ただ、長期浸水対策といいながらも昭和南海地震の津波では守るので、全く効果がないというわけではありません。

Q16：このあたりはレベル2の大きな地震に対して想定外ということですか。

県：レベル2は全国的に想定していません。レベル1は全国的に想定しています。

Q17：レベル2の2.4mについてどう想定していますか。

県：地盤沈降量は最大を考えています。堤防の高さについては、レベル1の津波高さまで上げてしまうと生活が厳しくなると思われるので、その点を勘案し、この地域にあう高さは長期浸水の高さだと考えています。

Q18：津波が湾に入ってくると、津波高は高くなるのではないですか。

県：津波高は高くなります。湾の形状を考慮したうえでシミュレーションを実施しているため、その点は考慮できています。

Q19：宿毛市の地形と似ている地形が東北でどのくらいありますか。

県：東北地方で震災時に堤防が転倒していたと思いますが、それは外洋に面しており津波が押し寄せたからであると考えています。宿毛の場合、比較的外洋に面した部分は少ないため、波が入ってきてじわじわと水位が上がるイメージを考えています。また、シミュレーションで実際の波の高さがどれくらいかを計算し堤防を設計しています。東北の状況と全く一緒ということはありません。

Q20：東北の地形と宿毛市で似ている地形はどのあたりかわからないですか。

県：検証したことがないため、わかりません。